

【準決勝】

市立船橋高校 VS 日体大柏高校

市立船橋は1-4-2-3-1、対する日体大柏は攻撃時⑬池上をアンカーに置く1-4-1-4-1、守備時は池上を両CBの間に落とす1-5-4-1のシステムとなる。立ち上がりからボールを保持したのは市立船橋。DFラインからビルドアップをして、ボランチを経由してサイドへ展開する。⑫畑に高い位置をとらせボールを供給したいが、日体大柏は5バックでサイドのスペースを消し突破をさせない。⑮松本がDFラインに落ちると左サイドの⑬植松も高い位置をとり両サイドから崩そうとするが、しっかりとブロックを形成した日体大柏の守備を崩すことができない。日体大柏は堅い守備から⑭耕野⑯南に供給してカウンターを狙うが、市立船橋の早い寄せに対してパスの精度やサポートが遅く、シュートまで持ち込めない。後半に入っても展開は変わらずボールを保持する市立船橋だが、なかなか⑰賀澤⑱鈴木に有効なくさびのパスが入らず、畑のサイドからの個人技頼みになってしまうシーンが多く観られた。そのような展開の中、日体大柏が左サイドの高い位置からのスローイングで市立船橋のクリアを拾い、クロスボールから相手DFの視野から完全に外れフリーになっていた⑲佐藤がこの日唯一のシュートを確実に決め先制する。その後市立船橋は圧力をかけ続け、残り5分には⑵トラビスを前線にあげパワープレーに出るが、最後まで集中力を切らさなかった日体大柏の牙城を崩すことができなかった。

千葉県立船橋啓明高等学校 上芝 俊介

中央学院 vs 流経大柏

中央学院は1-4-2-3-1、流経大柏は1-4-4-2のフォーメーションでキックオフ。立ち上がりからお互いにリスクを負わずにロングボールを多用する展開となった。その展開が続く中で、流経大柏は中盤でのセカンドボールの回収率が高く、そこからシンプルに前線にパスを入れ、⑹渡會のポストプレーや⑰森山の裏への抜け出しによりゴールへ迫る。中央学院はセカンドボールを拾って⑳藤本を起点にパスを繋いでリズムを作ろうとするが、効果的に攻撃を組み立てられずに我慢する時間帯が続いた。その中で、中央学院は1本のパスからディフェンスラインの裏に抜け出した⑰加瀬が相手GKと1対1となるがそのチャンス逃してしまう。

後半に入り、流経大柏は㉓橋本、㉔伊藤を投入し、1-4-3-3にシステムを変更し攻勢に出る。対して中央学院は⑥大塚、⑧松田を投入し、その二人をボランチに配置しゲームの流れを変えようと試みるが、流経大柏の中盤での素早いプレスの圧力に苦しんだ。押し込む時間帯が続く流経大柏はCKから1年生の㉓橋本がヘディングで合わせて先制する。その後、途中出場した㉕松本、㉖八幡が追加点を挙げ、3-0で勝利し決勝戦へと進出した。

千葉県立船橋北高等学校 高橋 剛

【決勝】

日体大柏 vs 流通経済大柏

日体大柏は1-5-4-1、流通経済大柏は1-4-3-3システムでキックオフ。流通経済大柏はシンプルに前線の選手に質の高いボールを配球し、攻撃の起点を作り、両サイドを使い精度の高いクロスからチャンスを作る。日体大柏は守備を固めて相手の攻撃を跳ね返し、⑭耕野のスピードを生かしたカウンターと⑤伊藤のロングスローを中心に攻撃する。流通経済大柏は、⑨渡會⑤桜井の献身性と球際の強さを生かしたプレーからクロスボールを配球し得点を奪い、日体大柏はカウンターとセットプレーを起点に得点を奪う。日体大柏は2対3のビハインドスコアになると、⑤伊藤を前線に上げ、1-4-3-3システムに変更し、PKから同点に追いつく。試合は延長戦までもつれ、終了間際に日体大柏がロングスローからの劇的な決勝ゴールで勝利した。互いに自チームの攻撃の特徴を生かし得点を奪い、狙った形がいかに発揮された試合であった。

千葉県立千葉高等学校 堤 誠太郎